79巻4号　2024年10月1日

YAA天文会報

（10～12月号）

８０２号

〒226-0016
横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402
正木　仁　方
Mail: masaki@e08.itscom.net
HP: http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html

横浜天文研究会

夕焼け空の月と金星

撮影：正木仁

観望ガイド

正木

暑さ寒さも彼岸までといいますが、今年は秋の彼岸が過ぎても夏日になったり急に気温が下がったりと、体調に辛い日々が続いています。さて、紫金山-アトラス彗星（C/2023A3）ですが、明け方の低空で尾を引く姿が撮影され、ネットなどで公開されています。当初の予想ほどは明るくはなく、肉眼で直接見るには厳しいようですが、双眼鏡では見えるようです。私は天候に恵まれずまだ見ることができていません。10 月中旬以降に夕方の空で見えるようになりますので、どの程度の明るさになるかはわかりませんが楽しみにしています。最新の情報は、国立天文台や各天文台、天文雑誌社などから最新の情報がネット上で公開されていますのでそれらを参考にしてください。

10 月の天象は、15 日が十三夜（後の月・栗名月）です。昔から十五夜（芋名月）とセットで両方を愛でる慣習が残っています。前にも紹介しましたが、中国から伝わった十五夜と違って十三夜は日本独自の風習です。

21 日はハレー彗星を母天体とするオリオン座流星群が極大になりますが、今年は満月後の月が残っていて条件は悪いです。

11 月は 16 日に水星が東方最大離角で、前後何日かは日没後の南西の空に低く見えており、左上には金星が光っています。17 日は天王星がおうし座の中で衝を迎えます。明るさは 5.6 等でしばらくの間は観測の好機です。双眼鏡でも簡単に見ることができます。17 日はしし座流星群の極大ですが、前日が満月のため条件は最悪です。ただし明るい流星が多いので、月を視界から隠すようにすればいくつかは見ることができると思います。

12 月はふたご座流星群ですが、これまた残念ですが満月と重なってしまいます。その代わりではないですが、土星、海王星、おとめ座のスピカが月に隠される現象が続きます。まず土星が 8 日 18 時 19 分から 20 分にかけて月に隠れていき、19 時 0 分から 2 分にかけて出てくる様子を見ることがでます。私は中学生の時に初めて土星食を見たのですが、望遠鏡の視野の中で輪っかのある土星が月に徐々に隠れていく様子は見ていて楽しく面白いものでした。翌 9 日には 17 時 26 分から海王星（7.7 等）が月に隠れ始めます。スピカ（1.0 等）の食は 25 日 3 時 17 分に潜入、4 時 13 分に出現となります。（すべて東京時刻）

14 日の明け方の 3 時から 4 時にかけて、月がおうし座のプレアデス星団の星々を隠しながら通過していきます。

表紙「夕焼け空の月と金星」撮影データ

撮影日時：2024 年 9 月 5 日 18 時 37 分（横浜市）

撮影機材：PENTAX K-3 MARKⅢ / DA55-300mmF4-5.8ED

f/6.3　露出 1/10 秒　ISO-1600　F108mm（35mm 換算 166mm）

星空・天体撮影を楽しむためには　　山形幹夫

中学生の頃からネオパンSSSそしてTry-X等のフィルムで星空・天体写真を撮影してきました。思えばいつの時代も写真技術の先端を行く方々がいて、私なんぞは足元にも及ばないものでありました。カメラもデジタルの時代になればなったで、気軽に撮影できるものの先端を行く方々にはやはり技術に大差があると理解しています。とは言え最近は天文雑誌のコンテスト写真に対して「あこがれるのは止めて、楽しもう」と言う仲間の存在もあります。さらっと画像処理し鑑賞して楽しめる写真でいいのはないかと考え始めています。

撮影には色彩の良いデジタルカラーカメラを選択することが重要です。著名な天体写真家が使用しているからと言って必ずしも良いカメラかどうかは疑問があります。私が使用しているカメラも自社製品だからということで選択していますが、ベストの選択ではないと感じています。星空・天体撮影に適しているカメラはやはり赤Ｈαの写りが良いことが全体の色彩を軽い画像処理で整える上で最重要と思います。私の考えでは現在最も赤Ｈαの写りが良いデジタルカメラは富士フイルム製のミラーレス機と思います。富士フイルムは銀塩写真時代にプロ写真家が愛用し業界標準であった自社のカラーフイルム、プロビアを始めとする20種類ものフイルム色彩に対応するなど、カメラ他メーカーとは異なるアプローチで画像処理エンジンのソフト製作がされていると想像されます。このためか天体用と称するカメラよりＨαの写りが良く、且つ赤色カブリが無い色彩が得られています。

比較的高額な製品群ですが、カメラ購入の選択肢に加えて頂けたらと思います。ご参考までに。

【本頁写真】M16,M17 2023年7月15日 撮影地：オーストラリア、チラゴー　FSQ-85EDP+ﾌﾗｯﾄﾅｰ f=455mm F5.4 Nikon D810A ISO6400 60秒×23 GraXpert処理有

日月星の伝承を訪ねて（81）

横山好廣

津久井の月待塔　④

1961（昭和 36）年、城山ダム建設のため移転を余儀なくされた内郷地区沼本坂下（旧相模湖町）の二十三夜塔・道祖神塔・常夜灯他について報告する。沼本は下図の左に、その上には相模川に造られた津久井ダム(1943 昭和 18 年完成)がある。本稿では、一般に称されている沼本ダムの名で表記。

沼本は相模川と道志川の合流付近に位置し湖沼地帯であったが、1965(昭和40)年の城山ダム完成後、津久井湖(城山ダム貯水池)の最上端の入り江になった。

水没地区　　『津久井町ダム史』p.97 から転載

沼本坂上から人気のない脇道に入り、津久井湖の北岸に下りるように崖沿いの道を行くと突然、覆屋の中に二十三夜塔を含む大型で豪快な石塔群見えてくる。前にはダムの湖面、河原が広がり、そこには水没した沼本の集落があり、静寂の世界に佇む石塔群は、恰もかつて水運や交通の要所で賑わっていた沼本を偲ぶが如く、静かに見守っている。

沼本の石仏群・沼本坂下

此の地で生活を営んでいた 41 世帯(60 戸とも)の人々は、相模原の二本松や旧相模湖町内郷地区への移住等で忙しい中、水没する運命にあった多くの無縁仏や石仏・石塔類を安全な高台や少し離れた正覚寺内郷(山口)に移転・安置させたのである。(参考・『郷土さがみこ』第二集、『津久井ダム史』他)

●月待塔

調査年月日　2024(令和６)年３月４日

調査地　相模原市緑区寸沢嵐 134　沼本坂下

名称　　二十三夜塔

形式　　自然石・文字　　＊子持石？

法量　　塔身　178(地上)×110×83

　　台石　埋込

銘文　　正面　「廿三夜」

　　左側面　「文化十四丑天七月日」

　　(1817)

二十三夜塔

兎に角、豪快な作風の石塔が四基並び、圧巻である。中でも、この二十三夜塔が最も大きい。

四基の造立年代は享和二年～文政二年の短期間に集中し、この頃、沼本は経済的に豊かで、巨大な石塔を建てる余裕があったことを窺わせる。一方、近隣で大型の石造物を散見することを考えると、村落間に大きさを張り合うような気風が背景にあったのではないかと想像する。

道祖神塔

二十三夜塔の左方、二基目。高さ 121 cmの大型の道祖神塔が建っているが、造立年月は二十三夜塔と同一。文化十四丑天七月である。但し道祖神の方に、七月廿三日と刻されているのが不思議。二十三日という日付は二十三夜塔の方が相応しいと思うのだが？道祖神の石材は石老山産の子持石(礫岩)のようだ。石老山(694m)は内郷地区にある奇岩・怪石、信仰の山として知られる。子持石は二十三夜塔にも使われ、近隣に６例ある。

(参考・『郷土さがみこ』第二集、第六集)。

二十三夜塔の左の大きな石造物は徳本名号塔(文政二 1819)である。二十三夜塔・道祖神塔の二年後の造立。高さ 161 cm、幅 80 cmの堂々たるものだ。正面には独特の書体で「南無阿弥陀仏」、「徳本」銘と花押が刻され、「武州・甲州講中」とあるのが興味深い。徳本は江戸後期の浄土宗の僧・念仏聖。念仏行者として全国を巡錫し、庶民から熱狂的な支持を集めた。没年、文政元(1818)年。

津久井方面では二十三夜塔と名号(南無阿弥陀仏)塔が一緒に祀られている場面に度々遭遇する。月待と念仏の間に親密な関係を感じる。津久井の二十三夜塔と名号塔については稿を改めたい。

二十三夜塔のすぐ右に大きな笠付常夜灯が並ぶ。全高 2m の端麗な姿である。竿部の正面に「金毘羅　秋葉山　大権現」、側面には「享和二戌歳(1802)　四月十日」と刻がある。基礎部には施主名が施されており「日待講中」と判読した。資料には「月待講中」とあり、日と月の識別は簡単そうで難しい。

『相州内郷村話』(抄録)には、新年最初の日待は一月十日の金毘羅、次は同月十七日の秋葉山と記されている。内郷では金毘羅と秋葉山の日待が新年早々に催される大事な行事であったと理解する。

常夜灯

沼本は相州と甲州を結ぶ鎌倉街道の道志川の渡船場であったので、日待講中は対岸・落合との間を往来する川船の安全と水運や村の繁栄を金毘羅に祈り、併せて秋葉山に火伏を祈ったと考える。沼本周辺には「金毘羅」、「秋葉山」を刻した常夜灯が 4 基あり、日待で奉納されたようだ。

(参考・『津久井郡文化財』石像編、『相模湖町史』民俗篇、『郷土さがみこ』第2集)

後記になるが、石塔群や周辺には開田記念碑・庚申塔・六地蔵・地蔵尊・馬頭観世音などの石仏・石塔が多い。内郷(山口)の正覚寺には水没した 13 番札所・宝珠庵の本尊・十一面観音菩薩像が安置され、多くの無縫塔・無縁仏も合祀されている。これらは往時の沼本を物語る貴重な遺産だ。脱線するが、正覚寺は民俗学者・柳田国男と縁があり、句碑が建つ。「山寺や　葱と南瓜の　十日間　国男」。

「水没した沼本」昭和 30 年代　『相模湖町史』民俗編から転載

右上に相模川に造られた沼本ダムが認められる。津久井湖の満水時、ダムの半分以上が水没する。すぐ下流には横浜近代水道(1887 明治 20 年)発祥の三井取水口跡がある。手前は道志川で、沼本は相模川との合流地帯になっていた。　(了)

天　象

相原　榮

10月

水星：夕方の西天低空　観望困難　−1.5〜−0.3等　おとめ→てんびん座
金星：夕の西南西天低空　−3.9〜−4.0等　てんびん→さそり→へびつかい座
火星：夜半に昇り明け方南中する　+0.4〜+0.1等　ふたご→かに座
木星：夜半前の東天に昇る　−2.5〜−2.7等　おうし座
土星：夕方昇り夜半前に南中　+0.7〜+0.8等　みずがめ座

3日　03h49m　新月（南米太平洋で金環日食）
6日　夕方の西天低空で月と金星が並ぶ
8日　04h00m　寒露
　22h　りゅう座流星群が極大の頃(好条件)
11 日　03h55m　半月（上弦）
15 日　未明の西天で月と土星が接近
16 日　未明の西天で月と海王星が大接近
17 日　20h26m　満月
16 日　未明の西天で月と天王星・プレアデス星団(M45)が集合
21 日　15h　オリオン座流星群が極大の頃(悪条件)
23 日　07h15m　霜降
24 日　17h03m　半月（下弦）
　未明の空で月・火星・ポルックスが並ぶ
25 日　未明の空で月がプレセペ星団(M44)に接近

11月

水星：夕の南西天ゆっくり高度を上げる　−0.3〜+2.1等　てんびん→さそり→へびつかい座
金星：宵の明星、夕方の南西天で高度を上げる　−4.0〜−4.1等　へびつかい→いて座
火星：夜半前に昇り明け方南中　−0.1〜−0.5等　かに座
木星：夜半過ぎに南中　観望好期　−2.7〜−2.8等　おうし座
土星：宵に南中、夜半過ぎに沈む　+0.8〜+0.9等　みずがめ座

1日　21h47m　新月
5日　夕方の西天で月と金星が並ぶ
　おうし座南流星群が極大の頃(条件良好)
7日　07h20m　立冬
9日　14h55m　半月（上弦）
11 日　宵の空で月と土星が並ぶ
12 日　宵の空で月と海王星が並ぶ
　おうし座北流星群が極大の頃(悪条件)
16 日 06h29m　満月
　宵の東天で月がプレアデス星団(M45)に接近
17 日 21h　しし座流星群が極大の頃(条件最悪)
22 日　04h56m　小雪
23 日　10h28m　半月（下弦）
30 日　夜半過ぎの西天で火星がプレセペ星団(M44)に接近

12月

水星：中旬以降明け方の東南東天　+2.6〜−0.4等　へびつかい→さそり→へびつかい座
金星：夕方の南西天で高度を上げる　観望好期　−4.2〜−4.3等　いて→やぎ座
火星：宵に昇り夜半過ぎに南中、月末から観望好期　−0.6〜−1.2等　かに座
木星：夜半前に南中、観望絶好期　−2.8等　おうし座
土星：宵の南西天、夜半に沈む、観望困難　+1.0等　みずがめ座

1日　15h21m　新月
5日　夕方の西天で月と金星が並ぶ
7日　00h17m　大雪
9日　00h27m　半月（上弦）
14 日　10h ふたご座流星群が極大の頃
　（条件最悪）
15 日　18h02m　満月
18 日　宵の東天で月・火星・プレセペ星団(M44)が集合
21 日　18h21m　冬至
22 日　19h　こぐま座流星群が極大の頃(悪条件)
23 日　14h49m　半月（下弦）
29 日　明け方の東天低空で月・水星・アンタレスが集合